

令和元年8月11日(日) 於中之条町ツインプラザ

## 新時代に求められる人間像を考える

－ 史伝等によって修める人間学 －

元群馬県教育長 唐澤 太市

### 1. はじめに

－ 聞き手、話し手双方にとっての自己啓発 －

### 2. 新時代の行く手は平穏か、はたまた激動・混迷か

－ 世俗的願望は平和で幸せな時代、だがそれは幻想では －

### 3. 歴史を学んで培う豊かな人間力

－ 日本人の優れた国民性は、日本の歴史と伝統によって培われたもの －

4. 国民作家・司馬遼太郎に学ぶ混迷の世を逞しく生きる知恵

— 深遠・明晰かつ論理的な司馬作品にちりばめられた人間学の勸所 —

5. まとめ

— 激動・混迷の新時代を、逞しく、心豊かに、着実に、前進することを念じて —

(参考資料)

## 国民作家・司馬遼太郎の箴言

元群馬県教育長 唐澤 太市

### 1 「自己」の重要性

人間には、素晴らしいことに、1個ずつ「自己」というものがおさまっている。こればかりは1億台のコンピューターもかなわない。

この自己とは、利害を中心とした自己とか、心理学でいう病的な「自己中心性」(本来、幼児の心性)の自己、あるいは日本の新しい病弊とされるミーイズム(自己中心主義)の自己ではない。古くからの日本語で言えば「タマシイ」のことである。私としては、いつの場合でも自分の魂をもって相手の魂に話しかけなければならない。

『風塵抄』(中央公論社)

### 2 唯一の徳目「正直」

人の世は、まことに生きづらいが、なんとか日々明るく過ごせる唯一の徳目をあげよといわれれば正直しかない。正直ということばは、江戸時代では商人や職人、あるいは下僕的美徳としてつかわれた。正直という、ことば・論理は、明治後、欧米思想に接するにおよんで格が大いにあがった。

『風塵抄』(中央公論社)

### 3 人間の才能

人間の才能は、大別すれば、つくる才能と処理する才能のふたつにわけられるにちがない。西郷は、処理的才能の巨大なものであり、その処理の原理に哲学と人格を用いた。

『人間というもの』(PHP文庫)

### 4 独学のすすめ

中学1年1学期の英語リーダーに、New Yorkという地名が出てきた。「この地名はどんな意味がありますか」と先生に質問すると反応が激烈であった。怒声とともに「地名に意味があるか!」と。その日、家へ帰る途中、市立図書館によって司書に必要な本を出してもらって読むと簡単にわかった。

図書館にゆけば簡単にわかることが、学校では教師とのあいだで感情問題になってしまう。私の学校ぎらい、図書館好きはこのときからはじまった。その先生が物わかりよく教えてくれたとしたら、この独学癖はつかなかったかも知れない。その点、反面の大神といえる。以上は、学生にも、社会人にも通じる“独学”のすすめととして読んでもらいたい。

ただし、“独学”は万能ではない。ひとりよがりにおちいることを常に感じておかねばあぶない。

『風塵抄』(中央公論社)

### 5 小説を書く基本姿勢

小生は、小説というものを書いた最初から、読者は3千人ときめています。自分の

周波数が合う周波数をもつ人はそのくらいだと思ってきて、いまもそうです。その上の人々が読んでくれるのは、時世時勢なのであって、自分に関係がないと思ってきました。小生の作品は、そうしたうえに立っています。3千人というのも多いと思います。だから、心に潤いがみちたのです。

(ある出版社編集者への手紙)『文藝春秋臨時増刊号』

## 6 人間のチャイルド(幼児)とアダルト(大人)

(講演録「松下村塾の教育に見る教育とは何か」)

人間は、大人になってもチャイルドの部分を持ち続けます。チャイルドな部分が芸術を生み、学問を生む。チャイルドの部分の少ない人は大人の中でいちばんつまらない。アダルトの部分の多い人は無用を避け、自分が無害であることを知らせておき続ける人間関係を指向し、アダルトの部分で接することが多い。しかし、アダルトの部分だけだと、これは俗物であります。もっとも、チャイルドの部分があまり豊富でも困りますが。

『週刊朝日増刊号・司馬遼太郎が語る日本』

## 7 歴史上最大の教育者

日本歴史の中で緒方洪庵は、最大の教育者である吉田松陰と並べて甲乙どちらかというとき、洪庵のことを調べていると、私は時に洪庵の方が甲じゃないかと思ったりします。

『司馬遼太郎の日本史探訪』(角川文庫)

## 8 クラークの「実物教育」による人材育成

クラークの「実物教育」は、単にすぐ役立つ実用教育をのみ意味したものではなかった。クラークの残した農学校の年報によると、農学校の目的は、青年たちの全人間的な教育を目指していたことがわかる。

クラークの影響を受けた生徒の中には、国際連盟事務次長となり『武士道』という英文の著作もある新渡戸稲造、日本植物学の基礎を築いた宮部金吾、近代を通して最もユニークな宗教思想家である内村鑑三、そして初代北海道大学学長となる佐藤昌介がいる。

『司馬遼太郎の日本史探訪』(角川文庫)

## 9 日本人とドナルド・キーン氏

「私が、その滅亡するのをどうしても欲しない一つの民族がある。それは日本人だ。最近の日本の大発展も私には少しも不思議ではない。彼らは貧乏だが、しかし高貴だ。」ということばは、詩人の大使ポール・クローデルが、言ったことば。時期は、昭和18年秋で、日本の敗戦が色濃く、キーン氏も私も戦争にかり出されていたころである。このことばは、私にとっても当然ながら甘美で、まして日本人以上に日本語世界にその知性と感情に浸しておられるキーン氏にとっても同様であるに相違ない。

『日本人と日本文化』(ドナルド・キーンと共著・中公新書)

## 10 日本人の道徳的緊張

明治国家というのはなんだったのか(中略) やっぱり一つの奇跡だったのだと思

ます。まったく違う文化の中から、ともかく法治国家としての形を整えた。しかも短い間にたいした経済力も持たずによくやったと思います。だが、それも大正・昭和になるにつれ、だんだんと干からびたものとなっていった、内村鑑三や新渡戸稲造における豊潤さも、なんとなくなくなっていく。どうもさびしいですね。

「明治という国」が、よくやったと言えるのは、道徳的緊張というものが、官吏にも国民にあったからです。 (NHKテレビ・「太郎という国の物語」平元・10)

#### 1 1 土地問題と日本の荒廃

日本はもうぎりぎりの状態にきている。つまり土地問題が、われわれの国民経済を荒らし回っている。このままでは、資本主義国家は成り立たなくなってしまう。

『文芸春秋増刊号・司馬遼太郎の世界』

#### 1 2 政治の無策

こういう予兆があつて、やがてバブルの時代がきた。日本経済は——とくに金融界が——気がくるつたように土地騰貴にむかった。どの政党も、この奔馬に対して、行く手で大手をひろげて立ちほだかろうとしなかった。

『風塵抄』(中央公論社)

#### 1 3 無謀な列島改造論

田中さんの「日本列島改造論」は、決して公的なものではない。あれを本気でやるなら日本はつぶれてしまいます。それほど馬鹿じゃないでしょう。日本の今後の問題は、すでに泥沼のようにになっている土地私権についての異常暴走で、このうえ「日本列島改造論」をやれば、心臓病患者にカンフル(血行促進剤)を打って心臓病に拍車をかけることになります。

『対談集・歴史を考える』(文春文庫)

#### 1 4 『21世紀に生きる君たちへ』(小学校国語・6年下 大阪書籍)

君たちは、いつの時代でもそうであったように、自己を確立せねばならない。

自分に厳しく、相手にはやさしく、という自己を。そしてかしこい自己を。21世紀においては、特にそのことが重要である。(中略) 自己といっても、自己中心におちいつてはならない。人間は、助け合つて生きているのである。私は、人という文字を見るとき、しばしば感動する。ななめの画がたがいに支え合つて構成されているのである。(中略)

鎌倉時代の武士たちは、「たのもしさ」ということを大切にしてきた。人間はいつの時代でもたのもしい人格を持たねばならない。人間というものは、男女とも、たのもしくない人格にみりよくを感じないのである。(中略)

以上のことは、いつの時代になつても、人間が生きていくうえで、欠かすことができない心がまえというものである。

『十六の話』(中央公論社)

#### 1 5 なによりも国語

言葉は、人の感性、悟性、あるいは知性に働きかける唯一の(絵画、写真、数字は補助手段にすぎない)伝達力をもつたものである。人類の感性、悟性、知性は、文明

の出発以来、言語によってできあがってきた。(中略)

言語の基本(つまり文明と文化の基本。あるいは人間であることの基本)は、外国語ではない。母親によって最初に脳に植えこまれたその国の、つまり国語なのである。国語(日本語)は、日本文化2千年の所産であるだけでなく、将来、子供たちが生きていくための唯一の生活材であり、精神材であり、また人間そのものを伸びさせるための成長材でもある。

『十六の話』(中央公論社)

#### 16 金言・格言の効用

金言や格言が、ある努力に対する推進力になったり、問題解明のイトグチを作る発想の動機になったりする効用は、けっして見のがすことはできない。それこそ、ルナールも「うまい言葉の一言は、悪い本一冊にまさる」という格言の”格言”をのこしているのだし、ニーチェですら「立派な箴言は、文学における大いなる逆説であり、変化し行くものの中で不滅のものであり、ちょうど塩のように常に尊重されて不変の、利かなくなることのない食物である」といっているのだ。戒心すべきことは、これらを人生に応用する態度の問題である。金言を、念仏や呪文のように自己催眠や自己弁護のために使用するとすれば、いかにすぐれた真理をふくんでいるにせよ、それは麻酔薬にすぎないのである。

『ビジネスエリートの新論語』(文春新書)

#### 17 作家で後輩(産経新聞社)への年賀状

頌・春 寅・元旦

人間、自若たるべきこと

人間、厭うべかざること

人間、孜々たるべきこと

(好漢へのセッキョウじゃ)

『文芸春秋臨時増刊号』